

我々の間に宿った言 ヨハネ1:1～14 / 李正雨師

メリークリスマス！主が私たちのためにこの世に来られました。主のご誕生をおめでとうございます。今日のクリスマスの礼拝には、洗礼式と人形劇が行われ、礼拝の後には、クリスマスビンゴゲームもあるので、集まり自体が長くなると思います。それで、説教までも長くなってはならないと思い、今日の説教は短くします。ルターも、長い間説教するのは、芸術ではなく、正しい説教でもないと言いました。ルーターの後輩として、今度のクリスマスには、ルターの忠告に従うのも悪くないだろうと思いました。そして、神様の言葉は、短くても、長くても、すべてが恵みの言葉だと思います。どうぞ、神様の恵みが皆様の耳に臨みますように願います。

ほとんどの本の序論には、著者の意図が書いてあります。著者は、序論を通して自分がこの本を書くことになったきっかけと目的などを言います。今日の福音書であるヨハネによる福音書も同じだと思います。ヨハネによる福音書の著者は、本の序論であるヨハネによる福音書1章で、自分がこの本を書いた理由について話します。それが今日の福音書であり、今日の福音書の始めには、太字で「言が肉となった」と書かれています。この意味は何でしょうか。とてもシンプルだと思います。神様が人間になられたということ、人間になられた神様がこの世に来られたということでしょう。しかし、これには問題が一つありました。それは、人間となられた神様を、世の人々が受け入れなかったということです。今日の福音書5節の言葉です。「光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった(5節)」。

著者は、この文を通して言いたかったことがあります。それは暗闇が光を理解しなかったということです。光はいつも暗闇の中で輝いていました。つまり神様はこの世に向かって何が善なのか、何が真理なのかを教えてくださいました。しかし、暗闇は、この世の人々は、これを受け入れませんでした。昨日、イブ礼拝の説教で申し上げたように、この世の価値と合わなかったからでしょう。分からないので、受け入れなかったのではなく、知っていましたが、受け入れなかったのです。

エミール・ブルンナーという神学者はこう言いました。「神を知らない人間はいない。神は私たちみんなの近いところにおられる。」人々は光について知らなかったのではありません。光は人々の中で輝いていましたが、人々はこの光を理解しなかったのです。なぜなら、彼らが求めているのは、光ではなく、暗闇に属しているものだったからだと思います。光を見逃したのではなく、暗闇を愛していたのです。それで彼らは、光が、肉となった言が自分たちのところに来られるのが好きではありませんでした。今日の福音書、10-11節の言葉です。「言は世にあった。世は言によって成ったが、世は言を認めなかった。言は、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかった。」

しかし、皆がこの言を拒むのではありません。この言葉を受け入れる人もいました。彼らが言を受け入れることができたのは、彼らが特別な人であったり、この世のことに興味を持っていなかったりするわけではありません。彼らもこの世に生きており、この世の価値を認めています。しかし、彼らがこの世ではなく、言を選んで受け入れたのは、言が光であり、真実であり、メシアであると思っていたからです。そして、今日、このように思っている人々の中の一人が洗礼を受けました。この世の価値ではなく、天の価値に従うことにしたのです。ここにヨハネによる福音書の著者は、言を選んだ人々にこう言います。12～13節の言葉です。「言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。この人々は、血によってではなく、肉の欲によってではなく、人の欲によってでもなく、神によって生まれたのである(12-13節)。」

言を受け入れた者たちには、神様の子となる資格が与えられます。言、神様によって新たに生まれたからです。新たに生まれた神の子は、光のことを理解するようになります。暗闇の中で輝いている光を理解し、暗闇の中でも光に従って行くことができるようになります。これは、神の子もこの世で生きていますが、この世が求めているのではなく、イエス様の教えを求めて生きていくというのです。この世の誘惑から離れることはありませんが、誘惑には負けないというのです。このすべてが可能になったのは、神が肉となったからです。そして私たちの中に宿っておられるからです。14節の言葉です。「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。」

ヨハネによる福音書の著者は、「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。」と言います。だから、神の子となった私たちも、必ずその栄光を見ることができるようでしょう。神様が肉となってこの世に来られたように、この世の肉である私たちも、神の国に行くことができるということです。今日、クリスマスは、これを記念する日です。言が肉となったこと、そしてその言が私たちの間に宿ったということを記念する日です。それで私たちは、この日に教会に集まって御言葉を聞き、聖晩餐を分かち合い、交わるのです。神様が私たちのところに来られたことを喜ぶ日だからです。救いが私たちに臨まれた日だからです。その日を記念するため、この場に集まった皆様に、御子の栄光がありますように。この世が理解できない真理と恵みに満たされますように。私たちの間に宿られたイエス様が、皆様をいつまでも導いてくださいますように、主の御名によって祈ります。アーメン